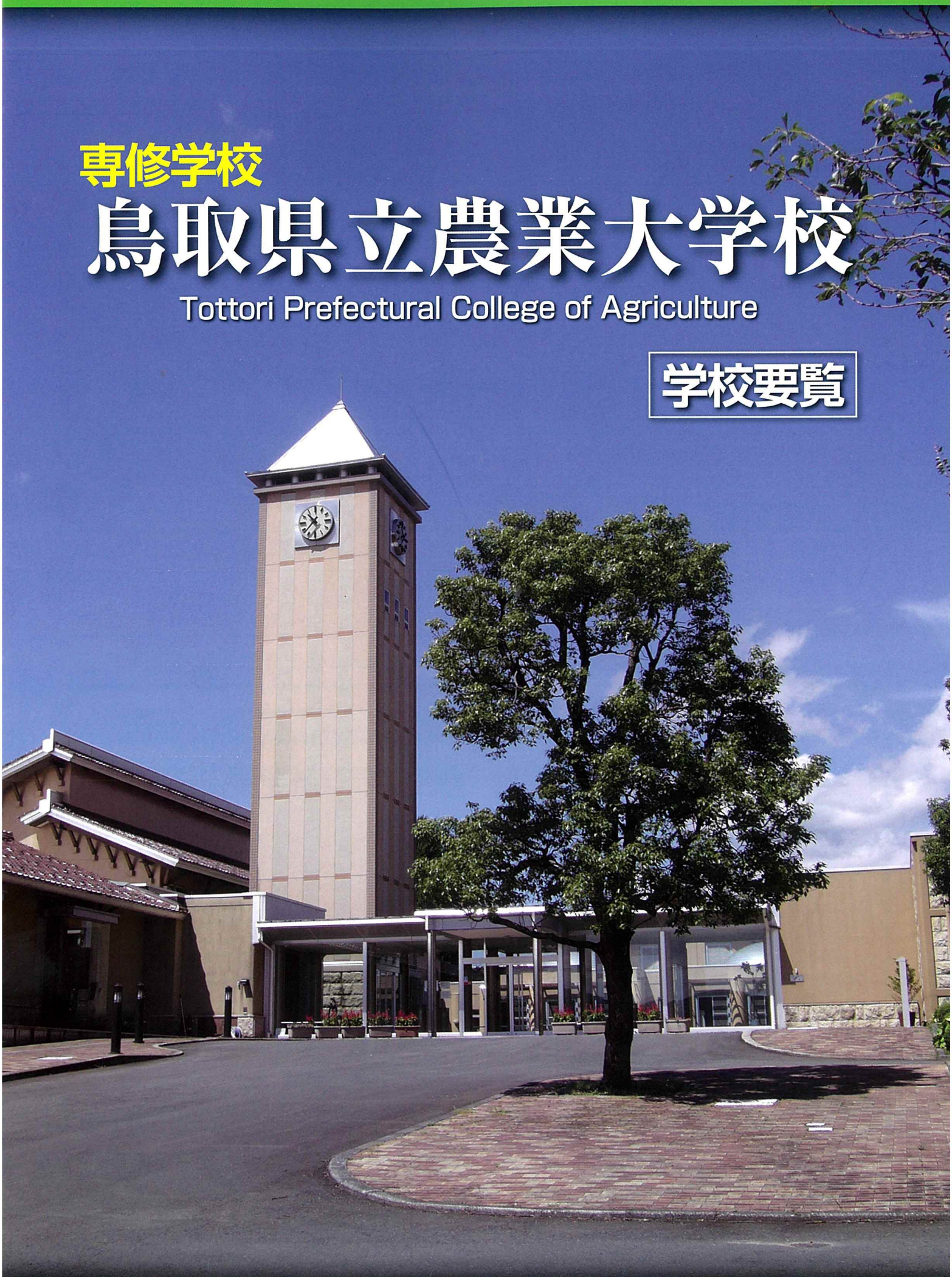
専修学校

鳥取県立農業大学校

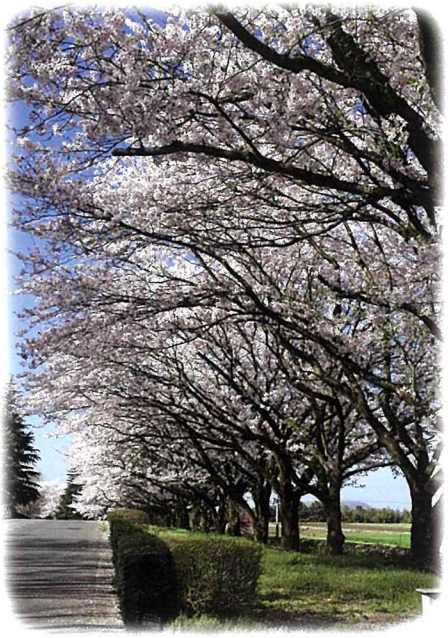
Tottori Prefectural College of Agriculture

学校要覧



URL:https://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/

沿　　革



◆昭和 4 年　財団法人山陰国民高等学校として開校。農村のリーダー的人材養成を目的に設置された。

◆昭和 9 年　県立修練農場として新発足。

◆昭和24年　県立経営伝習農場と改称。

◆昭和42年　県立農業経営大学校と改称。

◆昭和59年　県立農業大学校と改称。また、人事院規則の運用により卒業生は短大卒と同等の扱いとなった。

◆平成 9 年　教育施設を全面的に整備。

◆平成19年　専修学校として新発足。農業改良助長法に基づく農業者研修教育施設であるとともに、学校教育法が規定する専修学校として位置づけられた。

◆平成20年　養成課程農業経営学科に5つの専攻コース（果樹、野菜、花き、作物、畜産）を設けた。また、研修課程に短期研修科を新設。

◆平成27年　アグリチャレンジ科（公共職業訓練）を開始。また、短期研修科を見直し、スキルアップ研修及び先進農家実践研修を開始。

◆平成30年　農業生産工程管理の国際水準であるGLOBALG.A.P.をカリキュラム化。

設 置 目 的

次代の農業を担い、指導的役割を果たし得る人材を育成・確保し、及び農業者等の研修を行い、もって農業の振興に資するとともに、広く農業者等の生涯学習及び国際交流を推進する。

教育研修体系

本校には**養成課程**と**研修課程**の２つの課程があり、どちらも就農に向けた人材育成をしていきます。

養　成　課　程

農 業 経 営 学 科

- ２年の修業期間で生産から販売までの専門的な知識・技術を体系的に習得する
- 果樹、野菜、花き、作物、畜産の専攻コースを設ける
- 社会人特別入学制度あり

特 徴

- 充実した施設により高度で先進的な農業技術を習得する
- 農業インターンシップにより優れた農業技術と経営理念を学ぶ
- 外国の研修生との交流を通じ国際感覚を醸成する

概 要

- 高等学校卒業あるいは同等の学力を有する方を対象
- 養成課程は専修学校で、卒業生は専門士の称号が与えられる
- 希望入寮制で学生寮に入寮可能

研　修　課　程

スキルアップ研修

- 自営就農を目指す方を対象に、長期（1年間）・短期（4か月間）の実践研修により、就農に必要な知識と基本技術を習得する

特 徴

- 目標とする農業経営を想定した研修の実施により、自らの技術向上を目指すとともに現場作業をとおして実践力を身につける

概 要

- 自営就農の予定者または就農年数の浅い方で、経営基盤のある方を対象
- 研修者用宿泊施設の利用が可能

※この他、農業者や一般県民等を対象とした「農業研修」、公共職業訓練「アグリチャレンジ科」があります。（詳細は5頁）

2年間の課程で農業に関する生産から加工、販売までの専門的な知識・技術を体系的に習得します。

農業経営学科カリキュラムのポイント

1. 専攻コース制（果樹、野菜、花き、作物、畜産）で自分の希望するコースを選ぶ
2. 講義と実習の時間を同程度に配分したバランスの取れたカリキュラム
3. 先進農家で26日間研修を行い、農業の実際を学ぶ
4. 市場流通研修で、流通の実際を学ぶ
5. 直売所、修農祭における実習で、実践的に販売を体得
6. 充実した経営関係講義により、経営感覚を養う
7. プロジェクト学習により、課題解決能力を養う

教育棟

定員、募集方法

専攻コース	定員	募集方法
果樹・野菜 花き・作物 畜産	30名	推薦入学 一般入学 社会人特別入学※

※高校卒業あるいは同程度の学力のある方で、入学時（4月1日現在）65歳未満かつ2年以上の職歴があり、卒業後県内に就農する見込みのある方

農業経営学科カリキュラム

区分／月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1学年	午前	講義	農業全般基礎学習 栽培方法、土壌肥料学、農業機械、植物生理、病害虫、農薬等基礎的科目					専攻コース別基礎学習 園芸各論（果樹、野菜、花き）、作物学概論、畜産学概論等専攻コースごとの講義、実験、演習						
	午後	実習	基礎的栽培実習					プロジェクト学習						
2学年	午前	講義	専門学習（流通、販売、経営） 販売マーケティング、経営計画、情報処理、農業法人等農業経営に関する講義、演習					農業インターンシップ（26日間）	総括学習 ●卒業論文 ●農業経営計画					
	午後	実習	プロジェクト学習											

一般の方を対象とした聴講制度もあります。

果樹コース

永年作物である果樹の基本的栽培管理を習得しながら、経営感覚を養い、特に梨については新しい技術を学ぶことができる。

- 梨やブドウ等の新品種や新技術が導入されたほ場で、今後有望視される最先端の栽培技術を学ぶ。
- 本県は日本有数の梨産地であることから、技術習得の場は多彩であり、校内外で幅広く学習する。
- 農業における食の安全、労働安全等を持続するための国際水準手法GLOBALG.A.P.認証を日本梨で取得しており、学生が主体的に取り組む。

ジョイント栽培樹の受粉作業

野菜コース

鳥取県特産のスイカ、白ネギ、ブロッコリー等を主体に、作型を組み合わせて同一作物を1年間に複数回栽培し、栽培知識、技術の習得を図る。また、特産以外の作物も栽培することにより実践力、経営感覚を養う。

- プロジェクト学習では一人が一ほ場（露地・ハウス）を担当し、生産から出荷調製まで責任を持って行う。
- GLOBALG.A.P.認証を白ネギで取得しており、学生が主体的に取り組む。

スイカの接ぎ木作業

花きコース

鳥取県の主要品目であるストック、シンテッポウユリ、花壇苗などの基礎的な栽培技術を学ぶ。また、新規品目や先進技術にも積極的に取り組む。

- 学生ごとに1品目以上を担当し、作りたい花を最初から最後まで責任と自信を持って栽培する。
- 研修会、展示会などに積極的に参加し、新技術や農業情勢を学ぶ。
- 花壇苗でGLOBALG.A.P.認証取得に学生が主体的に取り組む。

保育園での寄せ植え教室

作物コース

機械操作実習（稲刈り）

水田の主要作物である水稲･大豆等について、基礎的な知識と年間を通じた管理技術を習得するとともに、水田営農における経営者･オペレータとして必要な栽培･経営技術を学ぶ。

- 水稲･大豆のほか、白ネギ･ブロッコリーなどの転作野菜の栽培にも取り組みながら、水田や水田転換畑の年間管理技術を細かく学ぶ。
- トラクター、田植機、コンバイン、刈払機などの機械作業の基礎を実際に演習しながら、一から学ぶ。

畜産コース

乳牛、和牛の基本的な飼養管理技術を習得するとともに、大型トラクターによる粗飼料の生産･収穫調製や自動化された搾乳など、先進的な畜産技術を学ぶ。

- 乳牛、和牛（繁殖及び肥育）、飼料作物の周年管理技術とトラクター、ローダー等の機械操作を学ぶ。
- プロジェクト学習を通じて科学的に飼養管理を学ぶ。
- 畜産共進会に出品し、出品技術の向上や生産農家との交流を図る。

子牛の哺乳

授業風景

講義

主に午前中は座学で知識を吸収します。

生産工程管理（GAP）

GAP（ギャップ）の国際水準であるGLOBAL G.A.P.を実践し、校内のリスク改善に取り組んでいます。

流通販売実習

学生が自ら育てた農産物を農大内外で対面販売し、好評を得ています。

卒業論文発表会

２年間のまとめとして、2年生全員が卒論を発表します。

大特・けん引免許

１年生全員が大特免許を、畜産専攻及び希望者がけん引免許を取得します（いずれも農耕車限定）。

現地視察研修

先進的な農業者や研究施設を視察し、知識を深めます。

田植え実習

専攻コース以外の実習を行うことで、農業全体の幅広い技術を体得します。

6次産業化の取り組み

農大ブランド商品の開発を目指し、農産物の加工にも取り組んでいます。